

結果が出なくても「倦(う)まず弛(たゆ)まず」
日々の積み重ねに心がけています。

研究内容

音声認識・分析の応用として 発音を訓練するシステムを開発

音声の分析や認識を対象にした研究を行ってきましたが、その応用の1つとして言葉の発音を訓練するシステムを開発しています。たとえば日本人が英語の発音を学ぶ際に、苦手なRとLの発音など、人間の発音のアニメーションと実際にどういうふうに発音したのかを視覚化して比べ、違いを指摘するような発音訓練システムを作っています。

発音する際に口の中を具体的にどのように動かせば良いかをアニメーションでうまく表現して、ソフト上で拡大するなどの操作をしながら、動きを確認するというもの。実際に自分がどのように口の中を動かしたかを推定し、アニメーション化してわかりやすく比較できるのも特徴です。

愛知県立大学
情報科学部 情報科学科 講師

入部 百合絵

10
ROLE MODEL

PROFILE

名古屋工業大学 工学部 生産システム工学科を卒業。
名古屋大学大学院 人間情報学研究所 博士後期課程を満期退学。
2007年に博士取得。
豊橋技術科学大学 助手、同大学助教を経て、2013年より現職。

英語だけでなく多言語も扱い、たとえば留学している人が日本語を学んだり、日本人でもアナウンサーのような職業の方が正しい発音を学んだり、さまざまな活用方法があります。今のところ企業や小・中・高・大学の英語教育といった教育現場を想定して実用化を目指していますが障害のある方のリハビリとしての活用も視野に入れています。

研究者への道のり

父の影響で理系へ進学 人間情報学を経て研究者に

工学に進んだのは父の影響が大きかったように思います。私が物心つく頃から父はパソコンが大好きで、趣味で電子工作に取り組んでいました。その遺伝子を受け継いだのかもしれませんが、父が基盤や電子部品を組み合わせて自由自在に好きなものを作っていた姿を見て、私も好きになっていった気がします。70歳を過ぎた今も父は多趣味で、自分の好きなことを見つけて一生懸命やっています。そんなわけで理系を選び、名古屋工業大学に進学して生産システム工学の分野を学びましたが、情報の分野に転向。修士からは名古屋大学へ移りました。人間情報学の研究を通じてその魅力に取り憑かれ、このまま続けたい、研究者になりたいと思うようになりました。大学院の博士課程を経た後、豊橋技術科学大学の情報メディア基盤センターの助教に応募して採用され、そこから今の研究に繋がっています。

学生の皆さんへ

いまは女性も好きなように人生を選択できる時代。結婚や出産に縛られないで、もっと自由にやりたいと思ったことにトライしてほしいと思います。

工学の魅力について

課題解決のアルゴリズムを 見いだすところが魅力的

工学の魅力は、作りたいものを考えて、自分の力で作ることができるところ。研究というのは課題があってそれを実現するために取り組むわけですが、そのためにどんな方法があるかを考えて、複数ある方法のうちどれかが上手いけば、モノとしてカタチにすることができます。もちろん最終的に実用化されるのが理想ではありますが、私自身は最初の課題をどう解決するかを考えて、アルゴリズムを見いだすところに面白みを感じますね。

実際、研究というものはすぐに結果ができるものでもないで、毎日コンスタントに「倦(う)まず弛(たゆ)まず」続けることが大切。うまくいかなくて落ち込むことがあっても、休まず淡々と続けていくようにしています。心がけているのは常に何事も準備をしっかりとどんな仕事でも一つ一つ丁寧に取り組むこと。やはり基本は研究が楽しいから、好きだからこそ続けていられると思っています。本や論文を読みはじめると楽しくなりつい研究にのめり込んでしまいます。最近では、子どもの存在も大いにモチベーションになっています。



女性の工学について

続ける意思さえあれば なんとかなるもの

以前、高校の先生に話を聞いたのですが、最近の生徒は何がやりたいかというよりも先に、理系文系の選択が迫られるために、ハードルが高いイメージや数学の苦手感から理系へ進むのを敬遠してしまうとか。理系文系という枠で振り分けるのではなく、モノの現象や作り込む面白さに興味を持つことが大切だと思っています。実際、数学が苦手な学生でも、音声进行分析することの面白さが分かって研究に打ち込んでいますよ。ただ出張授業などで、モノの現象や実験を見せて興味は持ってもらえても、大学受験という高いハードルの前に理系進学をあきらめてしまうという話も聞きます。

今は女性であってもさまざまな人生を選択できる時代。いろんな選択肢が用意されているので見たり聞いたり情報収集するとともに、さまざまことにぜひチャレンジしてもらいたいですね。中には就職が2年遅れるという理由で大学院に行くことを躊躇する学生もいますが、もっと自由に考えていいと思います。一般の企業と同じように研究者だって、結婚、出産後も続けられます。もちろん両立は大変ですが、家族の支援やベビーシッターの利用などで、意外となんとかなることもあります。

